

こんにちは もうり 栄子です



コロナ禍が長引き、暮らしも営業も限界だとの悲鳴が上がっています。ワクチン接種が始まりましたが供給量が不確定で実施主体の市町村は困惑しています。国の対応があまりにズサンすぎるのではないのでしょうか。

熱海の土石流災害、長野市篠ノ井地区での大規模な地滑りと災害が続く、あの湊の災害から15年、改めて気候変動への対応と防災・減災の重要性を認識しているところです。

6月議会は皆さんの要望をもとに、人権と暮らしを守る立場で声を代弁させていただきました。



6月議会に向け
知事への申し入れ
(6月11日)

諏訪湖漁業の再生に向けて対策を

諏訪湖の魚類生態系が大きく乱れ、漁獲高は年々低下。今年はワカサギの採卵ができず魚卵の出荷を断念。エビ漁も1昨年の4分の1に落ち込み漁期を短縮せざるを得ない状況が続いています。

漁協関係者が諏訪湖は「死の湖」になってしまうと危機感を募らせ要望を受ける中、環境委員会で原因の究明と対策につ

いて質問。

課長は水質がきれいになることで産卵場所が失われてきている、他県の浄化排水から栄養を入れる例など調査・研究し、検討すると答弁。「諏訪の湖には魚多し」と「信濃の国」で唄われる状況を取り戻すため早急な対応を求めました。



プリント基板製造会社からの工場排水流出事故への対応を

6月7日に茅野市米沢のプリント基板製造会社で工場廃液流出事故が発生。敷地外の河川や田んぼに3トン近く流れ出し、上川ではアマゴの死骸が確認されたとのマスコミ報道がされました。

住民の間で米沢米への風評被害や健康不安が広がっている問題で県として水質

や廃液とアマゴのへい死との関連などについてきちんと調査し、結果の公表と今後の対策をするよう求めました。

課長は上川などで調査し、結果は丁寧に説明していく、会社には顛末書の提出を求め指導していると答弁。

地方自治功労で知事表彰を受けました

市議・県議20年で知事表彰を受けました。いままで支えていただいた



皆さんに感謝申し上げます。ともにこれからはお役に立てるよう努力してまいります。ご指導、ご鞭撻をお願いします。

凍霜害被害農家の皆さんと懇談、知事要望で援助を要請

4月の凍霜害でりんご、なし、もも、ブドウなど県下で20億円余の被害があり、農民連の皆さんと懇談しました。

1年中かけてようやくものになるのに、花芽が全滅状態で収穫できない。県は共済や収入保険でというのが掛け金や青色申告のハードルがあり加入者は少ない。共済掛金や賦課金への補助は51の市町村が実施している。多いところは50%の補助がある。収入保険への補助は16市町村で実施しているが県としても補助制度をつくって応援して欲しいというもの。さっそく知事に要望させていただきました。

高校新入学生も授業用タブレットは公費で貸与を

GIGAスクール構想が急速に進められる中、小中学校には一人1台のタブレットが公費で用意されますが、高校生は自分で購入することを県は推奨しています。

しかし、5万から8万円と高額なため、所持率は32%。6月補正では自前で用意できない生徒に対し7000台分をレンタルで公費負担し貸与するための予算が提案されました。

卒業までレンタルする方針ですが、令和4年度の新1年生から自前で用意をとのこと。教育費負担の軽減のため新入生にも公費でレンタルすべきと求めました。

ご意見・ご要望をお寄せください。

